

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名		ぐんぐん千代崎		公表日		2026年3月5日	
環境・体制整備	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1	利用定員を厳守(既定の2倍以上)し、部屋の広さに応じ適切な体制を維持している 活動内容や年齢構成を踏まえ、同時期帯の利用人数を調整し、安全に十分な活動スペースを確保している	基準の2倍以上の活動スペースを確保しているという運営形態と、現場の感覚(主観的評価)との間に生じている認識の差を埋めていくことが課題です。 ハード面の充実を全スタッフが正しく理解し、その広さを最大限に活かしたゆとりある支援を提供できるよう、共通認識を深めてまいります。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	1	適切な形で運営している 子どもの発達段階や支援度に応じて職員配置を柔軟に調整し、必要に応じて個別対応を強化している	現場の役割分担や連携のあり方による「心理的な負担感」の差を解消していくことが課題です。個々の職員が配置の適正さを正しく理解し、チームとしてより機動的で余裕を持った支援体制を構築できるよう、共通認識を深めてまいります。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	視覚的な構造化やバリアフリー化を徹底し、子供が主体的に活動できる環境を整えている 視覚的支援やゾーニングにより構造化を回り、段差解消や表示の工夫等、特性に応じた環境整備を行っている	視覚的な構造化やバリアフリー化といったハード面の整備状況を、職員全員が支援のツールとして正しく再認識することが課題です。整備された環境がもたらす支援上の利点を共通理解とし、個々の特性に応じた環境設定のさらなる最適化に向け、継続的に取り組んでまいります。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		清潔感のある空間を維持している 静養スペースと活動スペースを明確に分けて配置している 毎日の清掃・消毒を徹底し、活動内容に応じて机配置やスペース分けを行い、安心して過ごせる環境を整えている	継続して取り組みます。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	1	クールダウンが必要な際、個別に落ち着ける部屋や場所を確保している クールダウンスペースを確保し、情緒の安定を図れる個別空間を用意している	物理的領域を「支援の質」として全職員が正しく認識し、有効に活用することが課題です。ハード面の充実を支援の成果に直結させるため、個々の状態に応じた空間利用のタイミングや手法について、共通認識の深化を図ってまいります。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		日々の気づきや目標設定と振り返りに活用している 定期的な会議や振り返りを実施し、目標設定・実践・評価・改善の流れを職員全体で共有している	継続して取り組みます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		保護者からの寄せられた要望を支援改善に繋げている 保護者アンケートや面談を通じて意向を把握し、改善点は職員間で共有し業務に反映している	継続して取り組みます。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		自由に声を出せる場を設け、現場の声を業務効率化に反映している 日々のミーティングや意見交換の場を設け、職員の気づきを支援内容や運営改善に活かしている	継続して取り組みます。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	5		第三者により外部評価は行っていない。 運営規程に定められた事業所の役割や評価指標について、実務レベルでのさらなる浸透と、職員間での正確な解釈の統一を図ることが課題です。規程の定数や基準を基となる知識に留めず、日々の支援の質を担保する「共通の物差し」として全職員が正しく指針にできるよう、内部研修等を通じて理解の深化を図ってまいります。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		年間計画を立てて研修を行っている 専門性の高い知識を職員で共有し、資質向上を図っている 外部研修への参加や事業所内研修を計画的に実施し、専門性の向上に努めている	継続して取り組みます。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		事業所の強みを活かした支援プログラムを明文化している HPでわかりやすく公表している 支援プログラムを作成し、事業所内掲示や説明等を通じて公表している	継続して取り組みます。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		アセスメントシートや面談を通してニーズを整理し、客観的視点をもって計画を作成している	継続して取り組みます。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		計画作成時には支援員間で協議し、多角的視点から検討を行っている	継続して取り組みます。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		個別支援計画を職員間で共有し、支援前ミーティングで確認している	継続して取り組みます。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		日々の行動観察だけでなく連絡帳や支援ノートも併用し、多面的に状況把握を行っている	継続して取り組みます。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		ガイドラインの4つの視点を踏まえ、本人支援・家族支援・地域連携等をバランスよく計画に盛り込んでいる	継続して取り組みます。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		チーム一丸となってプログラムの立案を行っている 活動案は職員間で意見を出し合い、複数視点で立案している	継続して取り組みます。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		子供の興味関心の変化に合わせ、活動内容がマンネリ化しないよう計画している 季節行事や興味関心に応じた活動を取り入れ、固定化しない工夫をしている	継続して取り組みます。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		本人の状況に応じ、少人数の個別課題と集団での社会性訓練をバランスよく組み込んでいる 個別課題と集団活動を組み合わせ、発達段階に応じた支援を実施している	担当する児童が特定されていないため支援員の対応が異なる場合がある
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		支援開始前のミーティングを徹底し、役割分担と当日の留意点を全員で確認している 支援前に打ち合わせを行い、役割分担や配慮事項を確認している	継続して取り組みます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1	支援終了後に振り返りを行い、その日の子供の変化や課題を即座に共有し次に活かしている 支援終了後は当日の様子や子どもの変化、成功体験や課題について具体的に共有し、次回の関わり方や配慮事項を検討する時間を設けている。	勤務体系の違いにより共有に時間差が生じる場合がありますが、導入済みの管理システムを最大限に活用し、不在時の情報も自ら補充して支援の連続性を保つ体制を構築することが課題です。「システムを通じて正確な支援把握し、共通認識を持って次回の支援に繋ぐ」というプロとしての基本姿勢を全職員に浸透させ、支援の質向上を図ってまいります。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		ICTシステムの導入により、支援記録の入力・管理を効率化するとともに、情報の即時共有が可能な体制を構築しています。記録においては「客観的な事実」と「支援者の見立て」を明確に区分して記載することを徹底し、経過を詳細に追えるよう整理しています。これにより、組織に基づいた支援内容の検証や計画の適正な見直しを迅速に行い、組織全体で支援の質の継続的な向上に取り組んでいます。	継続して取り組みます。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		定期モニタリングを実施し、必要に応じて計画の見直しを行っている	継続して取り組みます。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	6		自立支援・創作活動・地域交流・余暇支援等を組み合わせ実施している	継続して取り組みます。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		「自分で選ぶ」機会を多く設け、自己決定を促す声掛けや選択肢の提示を工夫している 活動選択制や意見表明の機会を設け、自己決定を尊重している	継続して取り組みます。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		担当者会議には児童状況を把握している職員が参加している	継続して取り組みます。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		協力医療機関や近隣の障害福祉サービスと連携し、包括的な支援体制を構築している 関係機関と情報共有を行い、必要時は連携体制を整えている	継続して取り組みます。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		学校との連絡係活用や送迎時の対話を通じ、下校時刻の変更にも柔軟に対応している 学校と日常的に連絡を取り合い、送迎や緊急時対応も円滑に行っている	継続して取り組みます。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6		就学前施設と情報共有を行い、支援の継続性を大切にしている	継続して取り組みます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	3	現在障害福祉サービス事業所などへ移行する等の対象児童がいない	現在、外部機関への移行対象となる児童がいない状況においても、将来的な移行期を見据えた地域連携の仕組みづくりや、関係機関との情報共有を平時から継続することが課題です。対象者の有無にかかわらず、地域の子ども・子育て支援の動向を常に把握し、必要な時に円滑な移行支援が提供できるよう、組織としての外部連携スキルを維持・向上させてまいります。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6		地域の研修に参加する機会を設けている	継続して取り組みます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6		外出支援や地域活動による交流をしている 地域の行事や公共施設の利用等を通して地域社会との接点を持つ機会を設け、社会経験の拡充や社会性の育成につなげている。	継続して取り組みます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	2	西区子ども部会等を中心に積極的に参加している。	個別連携で得られた知見や地域情報を、直接担当していない職員も含めた事業所全体で「共通の財産」として共有し、組織的な対応力をさらに高めていくことが課題です。部会への参加や地域活動の本質的な目的を全職員が正しく理解し、どのような状況下でも地域社会の一員として質の高い支援に繋がられるよう、内部研修等を通じて意識の統一を図ってまいります。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	1	日頃から保護者と連絡を取り合い、子供の成長や課題について共通認識を深めている 連絡帳や面談を通じて日々の様子を共有している	保護者から得られた貴重な情報やご意向を、直接対応した職員のみで留めず、ICTシステムや申し送り書を活用して全職員が自分事として正しく把握し、支援に活かすことが課題です。「担当ではないから知らない」という認識を排除し、組織全体で一貫したメッセージを保護者様へ届けられるよう、情報共有の精度とプロとしての当事者意識をさらに高めてまいります。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	2	現在は家族単位で一斉に参加する形式の研修等は実施しておりませんが、契約時や更新時、また日々の面談等の機会を捉え、個々の保護者様に対して運営規程や利用者負担、支援プログラムの内容を丁寧かつ個別にご説明しています。対面での対話を重視することで、疑問や不安をその場で解消し、深い納得と安心感を持ってサービスを利用いただけるよう努めています。	個別対話を通じた丁寧な説明体制を維持する中で、「事業所が保護者様とどのような規程・プログラムに基づき契約を交わっているか」を全職員が正確に把握し、プロとして共通認識を持つことが課題です。「自分が直接説明を担当していないから詳細を知らない」という当事者意識の欠如を排し、どの職員も一貫した説明と対応ができるよう、内部研修や資料共有を通じた理解の徹底を図ってまいります。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時には運営規定や支援内容、費用負担について、丁寧に説明している 契約時に重要事項説明書等を用いて丁寧に説明している	継続して取り組みます。	
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		計画作成時本人・保護者の意向を確認している	継続して取り組みます。	
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		計画内容を説明し、同意を得たうえで支援を開始している	継続して取り組みます。	
39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	1	ICTシステム（連絡ノート機能）を最大限に活用し、保護者様からのご相談や子育ての悩みに対し、場所や時間に縛られない迅速かつ丁寧なレスポンスを徹底しています。デジタルならではの即時性を活かし、日々の変化をリアルタイムで共有しながら、必要に応じて随時面談を組み合わせてご対応に寄り添った多角的な支援体制を構築しています。	ICTシステムに蓄積された貴重な相談内容や助言の経過を、直接担当していない職員も含めた全スタッフが**「自ら積極的に確認し、支援の共通認識を持つこと」**が課題です。「システムに入力されているから安心」ではなく、それを見ても自分の支援はどう活かすかというプロとしての当事者意識を醸成し、組織全体で一貫した家族支援を提供してまいります。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	4	2	集会形式の保護者会等は実施しておりませんが、ICTシステム（連絡ノート機能）を通じた日々のきめ細やかな情報共有や、個別の面談機会を最大限に活用しています。各ご家庭のプライバシーに配慮しつつ、個別に子育ての悩みやご兄弟の状況に寄り添うことで、強固な信頼関係を築いています。デジタルと対面を組み合わせた「個別に深い支援」を行うことで、ご家族全体の安心感に繋がっています。	個別対応で得られた保護者様のご意向やご家族の状況を、直接担当していない職員も含めて「組織の共通知」として正しくキャッチアップすることが課題です。「システムに記録があるから安心」とするのではなく、それ自ら積極的に確認し、どの職員も同じ熱量でご家族を支えられるよう、プロとしての当事者意識と情報収集能力を高めて参ります。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	1	重要事項説明書に基づき、苦情受付窓口（事業本部）を明確にし、保護者が相談しやすい環境を整えています。日頃から送迎時や連絡帳を通じてご家庭との円滑なコミュニケーションを心がけ、小さな要望や気になる点もその場ですぐに保護者に報告・共有し、迅速に対応できるよう努めています。	日々の業務が円滑に進んでいるからこそ、改めて苦情対応の基本手順や報告の優先順位について、職員間での共通認識を常に新しく保つ必要があります。どのようなケースにおいても、対応/バラつきが出ないよう、組織としての「即時共有（即時対応）」の感度をさらに高めていくことが課題です。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	1	ICTシステムを導入し、日々の活動の様子を写真付きで配信することで、視覚的にも分かりやすく透明性の高い情報発信を行っています。また、必要に応じてSNS等の連絡手段も併用し、ご家庭との迅速な情報共有や、緊急時の連絡体制を柔軟に構築しています。文字だけでは伝わりにくいお子様の成長や表情をリアルタイムに共有できる体制を整えています。	デジタルツールによる利便性が高まっているからこそ、情報を受け取ったご家庭側の反応や、そこから派生する細かな個別要望をいかに正確に汲み取り、対面での支援に繋げていくかが課題です。また、写真や情報の取り扱いについて、職員全員が常に高い意識を持って運用し続ける必要があります。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		個人情報保護管理・データ管理を徹底している	継続して取り組みます。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		視覚支援を用い、意思疎通が難しい際にも丁寧な情報伝達を心がけている	継続して取り組みます。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	1	お買い物体験や地域活動などを通じて地域の方との交流を図っている 地域行事への参加等を通じて開かれた運営を心がけている	現状の外出やイベント参加を継続しつつ、地域の方々との関わりを「単発の行事」で終わらせない仕組みづくりが課題です。お子様が地域の中でより自然に受け入れられ、相互に顔の見える関係性をさらに深めていくための、日常的な接点の創出を模索する必要があります。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		各種マニュアルを整備し、模擬訓練を定期的に行っている	継続して取り組みます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		非常食の備蓄や避難経路の確認など、防災対策を強化している 定期的な避難訓練を行っている	継続して取り組みます。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		契約時および発所時の健康チェックで、服薬状況や体調変化を把握している 事前に健康状況や服薬情報を確認している	継続して取り組みます。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		サービス利用開始前に確認を行い、変更が生じた際にもその都度随時確認を行っている 医師の指示書や保護者確認に基づき対応している	継続して取り組みます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画を策定し、道具や設備の点検を毎日実施することで、事故のない環境を維持している	継続して取り組みます。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		安全対策について保護者へ周知している	継続して取り組みます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハット報告を随時共有し、再発防止策を全職員で周知徹底している	継続して取り組みます。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		適切に対応している 年間計画を立てて研修を行っている 虐待防止研修を実施し、意識向上を図っている	継続して取り組みます。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		身体拘束廃止の方針ややむを得ない場合の対応手順を定めている 保護者への事前説明と同意書の締結を徹底している 組織的判断のもと、事前説明と計画記載を徹底している	継続して取り組みます。	